

抄 録

2-1

演題	「思い出」を紡ぐ便り
副題	～とびっきりの笑顔を追いかけて～

広報誌

思い出を紡ぐ

法人名 社会福祉法人 育明会

施設名 レジデンシャル常盤台

発表者名 (職種)	滝澤 素子 介護職員	都道府県	神奈川県
共同発表者	良元 瑞	住所	横浜市保土ヶ谷区常盤台 74 番 7
共同発表者	広報委員会	TEL	045-348-8001
共同発表者		FAX	045-348-8002
共同発表者		メールアドレス	info-tokiwadai@ikumeikai.net
共同発表者		URL	https://www.ikumeikai.net/tokiwadai/

今回の発表施設 またはサービスの 概要

平成 23 年 4 月開設、本入居 160 床ショートステイ 20 床のユニット型特養です。
開設当初より《リスペクトケア》を合言葉に、最期まで「その人がその人らしく」過ごして
頂ける様、寄り添ったケアに取り組んでいます。

研究の目的、PR ポイント

毎月第三木曜日に委員会を実施し取材内容を検討。
イベントやお知らせ、トピックス、OnlyOne の紹介
等を記事にし常盤台便りとして発行している。
発行された常盤台便りは施設内各所に掲示、希望者
には配布し、ご家族へ郵送している。また、外部と
のツールの一つとして情報提供、共有に努めている。

取り組んだ課題

広報誌「常盤台便り」の名称で毎月発行、現在第
150 号を超えた。マンネリ化にならない様に、写真
を多く掲載し目に留まる記事を心がけた。OnlyOne
の記事はその人らしさを知るコミュニケーション
ツールとして人気があり、常盤台の行事の雰囲気が伝
わるように、そしてご利用者の柔らかな笑顔のショッ
トを選び、ご利用者のアルバムとして、常盤台の歴史
を刻む便りとして取材を行った。

具体的な取り組み

- ① 毎月の発行
レジデンシャル常盤台で行っている行事や活動をお知らせする大切なツールとして、毎月の発行は欠かせない。どのような記事にするか、委員会内で話し合った後は、記事の取材・写真撮影・資料集めを行い、取材原稿の作成・割り付け・原案作成を締め切りまで行う。その後は施設長のチェックを経て「常盤台便り」が発行される。
- ② 新しい取り組みを取材
新たな取り組みをした元旦に年賀状の届いた様子を取材し、ご利用者の声を紙面に載せた。
- ③ 季節を感じて頂ける行事を取材
春はお花見、夏は流しそうめんとビアガーデン、秋はスポーツ・芸術・食欲の秋を、冬はクリスマスリース作りを取材した。
- ④ OnlyOne の連載
OnlyOne の作成には、ご家族様にお父様お母様の事を紹介して頂いたり、写真や思い出の品を持ってきて頂いたりご協力して頂いている。早めのアプローチに心掛けた。

活動の成果と評価

2023 年 5 月より「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」になり、距離を関係なく楽しみ、関わりを持つ様子を取材掲載し、その様子をお届けできたと思う。敬老の日特集として二か月にわたり、お一人お一人の写真やご家族と一緒にのショット、ご家族からのメッセージを載せ、「記念になります」「良い思い出が出来ました」と感想を頂いた。百寿の I 様のお祝いには、「一族全員集合」15 名の写真を載せ、大きな反響を呼んだ。I 様からは、「もうこんな集まって写真撮ることないね、宝物になりました、ありがとう」と感想と大きな笑顔を頂いた。また、四季を通じた行事の取材によって、紙面から季節感を感じて頂き、ご利用者、ご家族、職員にとってメモリーの一部になった。OnlyOne は、ご家族の協力を得て、ほぼ毎月の連載を行うことができた。ご家族からの依頼で増刷のご希望もあった。その人らしさを知るコミュニケーションツールとしての役割を担う事が出来たと思う。ご利用者が載っている便りは、ご本人へお届けしたり、居室に飾ったり、今年の思い出として保管されアルバムの一部となっている。今年度は、写真撮影を工夫し自然な表情の撮影を心がけ、その人らしいとびっきりの笑顔を載せることができたと思う。

今後の課題

今後も毎月常盤台便りを発行し、読み手が知りたい、見たい情報を収集し取材していく。ご利用者、ご家族、職員の思い出のツールとして、その人らしさ溢れる表情、とびっきりの笑顔を追いかけていきたいと思う。また、毎年の課題である写真撮影の技術を向上させ、20 年史刊行に向け、歩み続けていきたい。

2-2

演題 正式演題名は発表のジャンル・概要に記載

副題

法人名 社会福祉法人 敬心会

施設名 特別養護老人ホーム 栗原ホーム

発表者名 増田 真希子
(職種) 栄養士

共同発表者

共同発表者

共同発表者

共同発表者

都道府県 神奈川県

住所 座間市栗原中央 6-1-18

TEL 046-251-1166

FAX 046-251-9300

メールアドレス eiyo@zama-keishinkai.or.jp

URL

今回の発表施設 またはサービスの 概要

特別養護老人ホームと2箇所のデイサービスにて直営方式での食事を提供しています。
地元農家から仕入れた野菜を使用したバラエティ豊かな食事と食べやすさや安全性を重視したパンやケーキ、お団子などの手作りおやつを特徴としています。

研究の目的、PR ポイント

近年食品が大量に廃棄されていることが問題となっており、給食業界も多くの食品ロスを生み出していると考えられる。それと同時に食材費の高騰が止まらず給食経営を圧迫していることは業界全体にとって非常に大きな問題であり、食品ロスを削減し利用できるものはできるだけ利用していくことが必要である。

取り組んだ課題

従来当施設でも生鮮野菜を多く使用しているため、調理に適さない部分は廃棄していた。
野菜だけではなく他の廃棄食材についても調査を行い有効活用することで食品ロスをゼロにする取り組みを行った。

具体的な取り組み

1ヶ月間廃棄されている食材を調査し食品名ごとに分類し統計した。廃棄食材は野菜類、食パン耳、だし殻、茶殻に分類し、野菜類はさらに調理可、調理不可に分類した。野菜類は「ご飯のおとも」に調理して昼食に漬物の代替えとした。ほかにも「餃子」「おやき」「お好み焼き」にアレンジしメニューに取り入れた。だし殻も同様の味付けで「ふりかけ」に調理した。食パン耳は「フルーツタルト」「クッキー」にした。
茶殻はほうじ茶をパウダー状にしてパンや団子、ケーキに混ぜておやつとして提供し煎茶はミキサーにかけ砂糖、みりん、醤油で調理して「お茶佃煮」として提供した。

活動の成果と評価

今までは廃棄していた調理可に分類した野菜類、食パン耳、だし殻、茶殻は全て利用することができ、調理不可とした野菜もエキスを抽出してスープに使用し廃棄していた全ての食材で食品ロスゼロを達成した。野菜の「ご飯のおとも」は食物繊維、ビタミンC、だし殻「ふりかけ」はたんぱく質、ビタミンDを、煎茶の「お茶佃煮」は食物繊維を追加することができ廃棄食材の有効活用だけではなく普段のメニュー

では摂取しづらい栄養素の付加が可能となった。

今後の課題

廃棄していた食材も調理工夫次第で喫食可能であり、見栄えが良く人気のあるメニューや喫食率が高いメニューにすることができた。
また食品ロス削減に加え、日頃のメニューで取り入れづらいビタミンDや食物繊維といった栄養素の摂取も可能であり高齢者のフレイル予防や便秘予防につながっていく必要がある。

参考資料など

(Activation of Immune Responses in Mice by an Oral Administration of Bunching Onion (Allium fistulosum) Mucus Hiroshi Ueda, Atsuko Takeuchi, Tadayuki Wako
BIOSCIENCE BIOTECHNOLOGY AND BIOCHEMISTRY 77(9)
1809-1813, 2013年9月

2-3

演題	マクドナルドをもう一度食べたい！
副題	～食支援がもたらした変化～

食支援

法人名	社会福祉法人 神奈川やすらぎ会
施設名	第二森の里

発表者名 (職種)	塩川 匠 介護職員	都道府県	神奈川県
共同発表者	増井 ももこ	住所	厚木市飯山 3425
共同発表者		TEL	046-248-3888
共同発表者		FAX	046-290-3401
共同発表者		メールアドレス	info@morinosato.jp
共同発表者		URL	https://www.morinosato.jp/

今回の発表施設 またはサービスの 概要	神奈川県厚木市に、2006 年 4 月に開設された特別養護老人ホームです。 「その人らしく生きることを、最期の瞬間まで」を理念に、“自分らしさ”を支える環境づくりを目指し、自由と尊厳を大切にした暮らしを実践しています。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

入院を契機に ADL が低下し、退院時に食形態が変更となる方は少なくありません。
本発表では、人と関わりが苦手で、職員との関係性も希薄だった A さんに対する「食支援」について紹介します。ご本人、ご家族、各専門職の思いと葛藤が交錯する中で、最後はひとつとなって「本人の意思を尊重する」支援を実現できた私たちの実践から得た学びをお伝えします。

取り組んだ課題

新型コロナウイルス感染をきっかけに入院された A さんは、嚥下機能の低下により、医師の指示で常食からお粥・刻み食へと食形態を変更された状態で退院されました。ご本人はこの食形態に納得されず、徐々に不満が募っていきました。そしてある日、ついに不満が爆発し、食事そのものを拒否するようになってしまいました。
カンファレンスでは、「好きなものを好きなように食べたい」という A さんの強い意志と、「安全にまだまだ長生きしてほしい」と願う家族、窒息・誤嚥のリスクを重視する看護スタッフ・管理栄養士の視点、そして本人の意向を尊重したいと考える介護スタッフとの間で、それぞれの立場と思いが交差しました。何度も話し合いを重ねた結果、「自分の生活を自分の意志で決めたい」という A さんの気持ちを最優先とし、「好きなものを安全に食べられるようにする」ことを共通の目標として、チームでの取り組みが始まりました。

具体的な取り組み

1. 多職種によるアセスメントと目標設定
2. 常食に近づけるための食事試作
3. 口腔機能訓練とリハビリ
4. ご家族の積極的な協力
5. ドキドキの月見バーガー実食

活動の成果と評価

- ・嚥下機能が改善し、常食での提供が可能となった。
- ・食支援を通じて A さんとの信頼関係が構築され、現在はスタッフと外食にも出かけるほど良好な関係性が形成された。
- ・「誰のための支援か？」という問いを軸に取り組んだことが、チームの連携力を高め、今後の実践にも活かされる貴重な経験となった。
- ・支援の在り方を改めて見つめ直す契機となった。

今後の課題

- ・病院との情報共有の強化
- ・チームの連携力の向上
- ・リハビリに適した環境づくり
- ・同様の支援が必要な対象者への展開

2-4

演題	ビアガーデン常盤台
副題	～コロナ禍におけるイベント～

夏のイベント
他職種協働

法人名	社会福祉法人 育明会
施設名	レジデンシャル常盤台

発表者名 (職種)	由井 崇之 介護職員
共同発表者	行事委員会
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市保土ヶ谷区常盤台 74 番 7
TEL	045-348-8001
FAX	045-348-8002
メールアドレス	info-tokiwadai@ikumeikai.net
URL	https://www.ikumeikai.net/tokiwadai/

今回の発表施設 またはサービスの 概要	平成 23 年 4 月開設、本入居 160 床ショートステイ 20 床のユニット型特養です。 開設当初より《リスペクトケア》を合言葉に、最期まで「その人がその人らしく」過ごして 頂ける様、寄り添ったケアに取り組んでいます。
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

コロナ禍で密をさけて施設内でご利用者様の生活の
楽しみや四季を添えられるように時期ごとのイベン
トを他職種連携しながら企画と開催をしている。

取り組んだ課題

コロナの流行から数年。夏祭りの規模を縮小し、開催
することとなったビアガーデン。感染の状況を確認
しながら、今年度はどのように開催できるかを考え
た。また、新棟も会場として使用が出来るようになり、
既存棟と新棟をどのように使用するか、外国籍の方も
一緒に楽しめるにはどうしたら良いかを課題とした。

具体的な取り組み

- ・会場の選定、1 番街マルシェ、5 番街ネオマルシェ
を使用しご利用者様を振り分ける。
- ・マルシェには屋台を設営準備し、ネオマルシェは
テーブルを設置し食席として配置する。
- ・メニューの選定：お国料理を屋台に出店する。日
本(明石焼き)ベトナム(フォー)ラオス(コウピア)
イタリア(ティラミス)他通年メニューとして、じゃ
がバター、枝豆、乾き物、コロッケ、ソフトドリンク、
ビール、ポップコーン、ソフトクリーム
- ・後半には盆踊り、花火大会を開催する。花火に関
しては、コロナの影響で出来なかったが 3 年ぶり
の再開となる。

準備：ポスター、ご利用者様への周知、屋台メニュー
ごと各担当を決めて準備をする。

お国料理は前日、当日に事前に下ごしらえし、当日
はマルシェキッチンと 8 番街を使用し調理準備を行
う。

盆踊り、花火：事前に自治会の方から踊りの指導を
頂く。花火師は新入職員を中心に事前に声を掛け当
日の花火を担って頂く。

活動の成果と評価

- ・事前の準備など、大きな弊害もなく順調に開催す
ることができた。
- ・ネオマルシェの方を屋台にお連れする距離が遠
かった。当日は雨の影響もあり屋内の通路からの

移動になった為、晴天であれば、駐車場を通ること
もできたので、次年度以降は今回のように臨機
応変な対応が必要。

- ・お国料理はとても評判がよく、ご利用者様、職員
からも反応が良かった。それぞれの屋台による、
振り分け役割分担が滞りなく実施が出来ていた。
- ・フロアでのコロナ発生により、参加を見送り番街
にお持ちする対応があった。コロナ禍においては、
蔓延防止の為に統括施設長の指示のもと、安全
に配慮されながら慎重にイベントが開催されてい
た。

今後の課題

- ・感染症の流行に合わせて、無理のない開催が今後
とも求められる。
- ・お国料理の評判はとても良かった。自分の国の料
理もと声も聞かれている。ビアガーデンにとらわ
れず、外国籍の方をリスペクトしお国を知る機会
を設けられたい。
- ・通年イベントであるが、上手く引継ぎが出来てい
ないことが年間を通じての課題。新しく行事委員
となった方への指導や引継ぎや方法は今後の課題
とする。

2-5

演題 A Day In The Day

副題 ～ SNS によるサービス向上と営業戦略の検証～

法人名 社会福祉法人 たちばな会

施設名 天王森の郷

発表者名 深山 尚子
(職種) 相談員

共同発表者 成島 咲子

共同発表者

共同発表者

共同発表者

都道府県 神奈川県

住所 横浜市泉区和泉町 733

TEL 045-804-3311

FAX 045-804-5005

メールアドレス day@tachibanakai.or.jp

URL

今回の発表施設 またはサービスの 概要

当施設は、特別養護老人ホーム、短期入所、地域密着型通所介護、居宅介護事業所の4事業所を併設しています。本年25年目を迎え「お客様の尊厳の保持と自立支援を第一に専門職として最高のサービスを提供する」ことを介護理念としています。

研究の目的、PR ポイント

SNSを通じて、利用者の日頃の様子を公開することにより、利用者家族への安心感・満足度の充実を目指し、あわせて社会的認知度を向上し、営業集客効果も期待する。

取り組んだ課題

新規開設したSNSによる利用者家族の満足度の把握と付随する営業手段としての効果を検証する。

具体的な取り組み

- ① 研究対象
利用者家族及び地域のケアマネジャー
- ② 研究期間
令和5年8月から令和5年11月
- ③ データ収集及び分析方法
 - 1) お知らせを配布しSNSを周知
 - 2) SNSの閲覧状況、満足度、ご要望等に関するアンケートの実施
 - 3) 回収したアンケートの結果を分析・検証
 - 4) 新規獲得数（契約数）の確認
- ④ 研究の論理的問題
SNS上に写真を公開して良いか同意書を交わす。
個人情報、肖像権の取扱いに注意する。

活動の成果と評価

- ① 利用者家族47名へアンケートを配布し、33名の回答をえた。(回収率67%)そのうち閲覧率は50%で、半数以上はフォロワーとなり、安心感・満足度も非常に高いことがわかった。一方、閲覧した事がないと答えた方の大半は、「スマートフォンを持っていない」「閲覧方法がわからない」を理由に挙げていた。
- ② 地域のケアマネジャー15名にアンケートを配布し、15名の回答をえた。(回収率100%)そのうち、閲覧率は30%と予想以上に低い結果となった。その理由として、施設のスマートフォンにアプリをインストールできないなど環境要因が大半を占めていた。一方、閲覧した事があると回答した75%の方が、日頃の様子がわかり、当センターを勧め

るのに役立つと回答した。

- ③ 新規契約数は、2023年8月1件、9月2件、10月4件、11月1件獲得し、この時点では、SNSの効果は確認は出来なかったが、この取り組み前と比較すると新規契約数は増加傾向となった。また、現在では、新規利用者家族にSNSを見てもらい当センターを紹介するケアマネジャーも見受けられるようになった。

今後の課題

利用者家族へのサービス向上のために、公開内容のさらなる充実や地域のケアマネジャーが新規利用者紹介の際にSNSも活用して頂く方法、さらにはSNSを閲覧できない方への配慮の検討が必要である。

- ① SNSを閲覧できない利用者家族にも、日頃の様子を知って頂き安心感・満足度を向上するための方法の検討。
- ② アンケートの要望に応じた投稿内容の一層の充実。
- ③ 新規利用者獲得のため、より多くの地域のケアマネジャーにSNSを活用してもらう方法。
- ④ 定期的に利用者家族及び地域のケアマネジャーにアンケートを実施し、さらなるサービス向上をはかる。

参考資料など

中四国介護看護 HP

2-6

演題	従来型施設での排泄ケア改善の取り組み
副題	～オムツセンサー活用による新たなアプローチ～

排泄改善
生産性向上

法人名	社会福祉法人 若竹大寿会
施設名	わかたけ富岡

発表者名 (職種)	加藤 綾 介護職員
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市金沢区富岡東 2 丁目 1-5
TEL	045-776-1230
FAX	045-776-1060
メールアドレス	wari_ay@wakatake.or.jp
URL	https://wakatake.net

今回の発表施設 またはサービスの 概要	わかたけ富岡は 2002 年開所。入所定員は本入居 134 名、ショートステイ 10 名の従来型介護老人福祉施設です。「職員一丸となって人を幸せにします。」という法人使命のもと、自分自身が利用したいサービスの実現に努めています。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

現在、日本は少子高齢化に伴い生産年齢人口の減少が続いている。そのような中、国の施策では ICT の導入や業務改善により介護現場の生産性向上が喫緊の課題となっている。公益財団法人介護労働安定センターが発表している令和 5 年度「介護労働実態調査」結果によると入所施設系の介護ロボット・ICT の導入状況について日常的に利用していると回答した中でパソコンによって利用する介護ソフトは約 81%、次にベッドセンサーは約 68% であった。介護ロボットでは入浴支援は約 8%、装着型の移乗支援は約 7%、排泄関係は約 1% という結果であった。本研究の目的は、従来型特養における排泄ケアにおいて介護ロボットを導入することでご利用者の快適性と職員の変化について明らかにすることである。

取り組んだ課題

背景として介護現場の生産性向上に向けて、ここ数年の間にわかたけ富岡では様々な機器のトライアルを行い、食事、入浴、移乗、記録類は機器を導入を行ってきた。新しい介護に向けての改善を通し、現場のオペレーション数の見直しや残業時間など一定数の成果を得ることができている。一方で、排泄介助においては大きな変化がなく従来の介助方法で経過していた。オムツの品質は開発が進んでおり、ムレやごわつきの改善など快適に使用できるようになってきているが、介護現場では個々の排泄タイミングの把握には多くの時間と労力を割き、ご利用者に負担をかけている現状があった。ご利用者、職員双方に負担なく排泄アセスメントはできないか？また生活の中で不快な時間が少なくできないか？という課題解決のため、神奈川県ロボット実装促進事業にエントリーし、オムツセンサー導入を行い、取り組みを開始した。

具体的な取り組み

- 株式会社光洋のオムツセンサーと専用パッドを使用。オムツセンサー装着時には排尿時間、排尿量、排尿回数、パッド内吸収量のデータを取得。

ご利用者ごとに使用パッドやパッド内吸収率の設定を行い、上記データを常時 iPad で確認できる環境を整え、ケアの合間に確認。

パッド内吸収率 70% と設定を行い、パッド内吸収量が 70% に達した表示が出たタイミングで排泄介入を行った。

- 対象者：施設内の 1 つの生活単位(ブロック)を対象にオムツ使用者 4 名、トイレ誘導者 4 名を選定。
- 運用期間：2024 年 1 月～3 月
- 効果測定：センサー装着前後の不快時間数の比較
職員アンケートを実施

活動の成果と評価

- ご利用者の快適さの追求
 - 排泄アセスメントでの確認作業は不要となり、負担軽減に繋がった。
 - パッド内吸収率を設定し、設定を越えた際にアラートを表示させることで交換のタイミングが分かり、不快な時間を短く交換することができた。今までの交換タイミングと比較すると不快と感じる設定値を越えた時間数の減少に繋がった。
- 職員の負担軽減
職員アンケートの結果身体的負担軽減については約 7 割、精神的負担軽減については約 4 割の職員が軽減したと回答。
排泄ケアの意識向上につながったかという質問には約 7 割の職員が繋がったという回答となった。

今後の課題

- 対象者を増やしての活用
- 継続できる仕組みの構築
- 改善の継続

参考資料など

公益財団法人介護労働安定センター 令和 5 年度「介護労働実態調査」

2-7

演題	ピンチをチャンスに変える
副題	～ケアの見直しと利用者満足度向上の取り組み～

法人名	社会福祉法人 奉優会
施設名	奉優デイサービスセンター北

発表者名 (職種)	松井 信子 介護職員	都道府県	神奈川県
共同発表者		住所	横浜市都筑区中川中央 1-37-19 プリムラ 2F
共同発表者		TEL	045-482-7563
共同発表者		FAX	045-482-7573
共同発表者		メールアドレス	centerkita-day@foryou.or.jp
共同発表者		URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	コロナ禍からの稼働減少により、ピンチをチャンスに変え、サービス提供の見直しを行い、利用者満足度向上に向けた取り組みを行いました。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

コロナ禍により稼働が減少したが、どうしたら利用者満足度が上がり稼働も回復するのかを考え取り組んでみました。

取り組んだ課題

- ・ 個別プログラムの提供による認知症の方の変化
- ・ 新たなプログラムの展開
コロナ禍により事業所の強みが弱みに(外出が出来ない)なってしまった事により、弱みを強みに変えるプログラムの変更
- ・ 顧客満足度向上に向け
イベントや外出の再開
サービスの質向上の為に個別ケアの見直し
- ・ 個別機能訓練導入により訓練実施者の ADL 維持

具体的な取り組み

コロナ禍によりプログラムの変更を行った、また、ご家族等からの希望もあり個別機能訓練の導入により稼働向上した。一方サービス提供力の低下となってしまう為ご利用者の求めるものは何かを改めて見直す

事例 1

帰宅願望のご利用者のケアの変化

事例 2

失語症の方へのケアの変化

活動の成果と評価

- ・ 事例 1、個別プログラムの提供で帰宅願望の減少
- ・ 事例 2、職員に対する興奮状態の減少
- ・ 選択制プログラム、個別プログラム実施によりご利用者、ご家族の満足度向上
- ・ 外出イベント再開により他社との差別化
- ・ 機能訓練実施者の ADL 維持実現

今後の課題

- ・ 自立支援を促すサービス提供
- ・ 自ら「行きたい」と自己決定できるサービス展開し
選ばれるデイサービスへ

2-8

演題	『あつまれ！なみき』で紡ぐ未来
副題	～産学民連携の拠点作り～

法人名	
施設名	横浜市富岡東地域ケアプラザ

発表者名 (職種)	鈴木 伸貴喜	都道府県	神奈川県
共同発表者	村上 理香	住所	
共同発表者	松原 理恵子	TEL	
共同発表者		FAX	
共同発表者		メールアドレス	
		URL	

今回の発表施設 またはサービスの概要	2005 年 1 月開所。当地域ケアプラザでは、①地域包括支援センター、②生活支援体制整備事業、③地域活動交流事業、④居宅介護支援事業、⑤高齢者通所介護の 5 部門を運営。地域ケアプラザの担当地区の人口は約 1.5 万人、高齢化率は約 37% と市平均約 25% よりも高くなっています。
-----------------------	--

地域ケアプラザ担当地区内にある金沢シーサイドタウン地区（以降は地区と呼称）は高齢化率が約 43% と市内平均を大きく上回り、約 30 の自治会が存在する。地区内の約 95% が集合住宅であり、その内約 50% の住宅にはエレベーターがない。住宅事情と高齢化が合わさり、地域住民だけでは解決できない様々な地域課題がでている。『住民主体』の地域課題解決に限界を感じている金沢シーサイドタウン地区社協からの相談を受け、地域と地域ケアプラザがタッグを組み、課題解決の為に産学民連携に取り組んだ。

研究の目的、PR ポイント

地区内の身近な活動場所に、集会所として利用することが多い管理組合事務所があるが、自治会員以外の利用には制限がある。その他に地区内には金沢区スポーツセンター、コミュニティハウス、地区センター、地域ケアプラザなど公的な貸室も存在する。こうした地区事情から、地区内には『支えあい・協働』が生まれにくい環境、及び QOL を維持するには『フレイル予防』の重要性が高い環境である。人口減少・高齢化が進む地区で既存の地域活動の維持や新たな取り組みの創出には『支えあい・協働』の環境づくりが不可欠であり、『フレイル予防』の効果を高める取り組みを増やす必要がある。産学民連携に取り組むことで、この地区の課題に対して必要なものを明らかにする。

取り組んだ課題

自治会や取り組みの対象（子育て、高齢向け等）が異なると協働・共有できるテーマでも、活動場所等により別々に取り組んでいる為、同じ問題・課題を抱えている仲間に気付くことができない。また介護保険の隙間を埋める生活支援の有償ボランティアも、高齢化により、受けられる件数や内容が減少傾向。個人でもグループでも困りを解決できないままになることが多い為、『支えあい・協働』の土壌作りが必要であると考えられる。また階段昇降を自力で出来ないと、自由な外出が困難となる住宅事情があり、QOL を下げる為には『フレイル予防』に取り組むことが必要。

活動の成果と評価

具体的な取り組みを通して、栄養に関する講座の食材調達、活動場所の提供、物品の貸し出し、協賛金の出資などを協力してくれる企業が存在し、学生ボランティアの募集や研究に合わせた共食・配食の提案などの近隣にある学校の協力も得られ、産学民連携で課題解決をできることが分かった。また生活支援の課題解決には、住民だけでなく企業との協働が必要だと分かった。フレイル予防 3 本柱の『栄養』に取り組むと、「実はどれだけ運動しても体力がつかなかった。持ち運びがしやすいカップラーメンで済ませていた。」など、栄養面での課題も地区内にあることが分かった。

今後の課題

地域課題解決の為に産学民連携であるが、特定の企業だけの利益を追求しているように見える。また今後は、行政・区社協を交え、より地区に密着した取り組みを展開していく必要がある。

参考資料など

- 厚生労働省ホームページ
『健康長寿に向けて必要な取り組みとは？100 歳まで元気、そのカギを握るのはフレイル予防だ』
- 『金沢ささえあいプラン・第 4 期金沢区地域福祉保健計画地区別計画・金沢シーサイドタウン地区』

2-9

演題	ケアプラザのつながりを活かした子ども支援
副題	

法人名	社会福祉法人 若竹大寿会
施設名	横浜市六角橋地域ケアプラザ

発表者名 (職種)	安信 昌子 その他	都道府県	神奈川県
共同発表者	小川 望	住所	横浜市六角橋 3-3-13
共同発表者		TEL	045-413-3281
共同発表者		FAX	045-488-3138
共同発表者		メールアドレス	rokkakubashi_cp@wakatake.or.jp
共同発表者		URL	https://wakatake.net/category/facility/careroKKaku/

今回の発表施設 またはサービスの 概要	横浜市神奈川区にある地域ケアプラザ。地域包括支援センター、地域活動交流部門、生活支援体制整備、居宅介護支援事業の4部門があり、地域の福祉保健活動の拠点となっている。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

これまでに六角橋地域ケアプラザでは、子育て広場や常設キッズルーム、水遊びやハロウィンパレード等、未就学児対象の事業を多く実施してきた。しかしここ数年、小学生を対象とした事業を多く企画実施する中で、少数ではあるが支援が必要な子どもたちの現状がみえてきた。事業のつながりから、協働にて実施した事業について発表する。多くの機関とつながりのあるケアプラザだからこそその居場所づくりの意義と、少子化、核家族化グローバル化が進む社会背景によって変化する子どもの課題にどう向き合えるか、ネットワークを活かした支援をどう構築していくかを考え実践した。

取り組んだ課題

「不登校支援」「きょうだい児支援」「外国につながる子どもの学習支援」について取り組んだ。それぞれ支援を必要としている子どもたちは少数であることや、専門的なサポートが必要な部分もあり、一事業所では実施が難しいことに対し、ケアプラザのネットワークを活かして他機関を巻き込み、個別の課題に丁寧に関わることを心掛けた。

具体的な取り組み

2023年度、ほぼ同時期に開始。
【不登校支援】
隣の区で活動実績のあった団体と共催にて実施。毎月一回、定期実施。
【きょうだい児支援】
近隣放課後等デイサービスと実施。参加人数は少ないものの、参加者の満足度、継続の希望が強い。
【外国につながる子どもの学習支援】
2023年度夏休みの宿題支援からスタートしたが、継続の要望が強く、毎月二回実施。宿題に留まらず、日常生活の困りごとへの対応にも柔軟に対応している。

活動の成果と評価

事業の認知度が上がるにつれ、教育関係機関からケアプラザへ直接の連絡が入ることも増えてきた。一事業所では、課題はあっても実施が難しい支援に対し、ケアプラザの強みである連携から事業を実施してきたが、個別のサポートを通じて関係機関との連携が強化され、信頼関係が増してきている。三つの事業を行うことで、複合的な課題を抱えた家族への支援の必要性もみえてきている。

今後の課題

- 継続性の課題
それぞれの対象者の人数は少ないが、確実にサポートが必要な子どもたちに対して、事業を継続して行うことで、必要な時に必要な資源にアクセスできる環境をつくっていく必要がある。
- 広報の課題
現在行っている活動の広報を強化し、必要としている人に届く仕組みづくりをしていく必要がある。
- 複合的な課題へのアプローチ
個別性の高い複合的な課題に対し、より専門的な機関との関係を密にし、見守り、つなげる仕組みが必要。